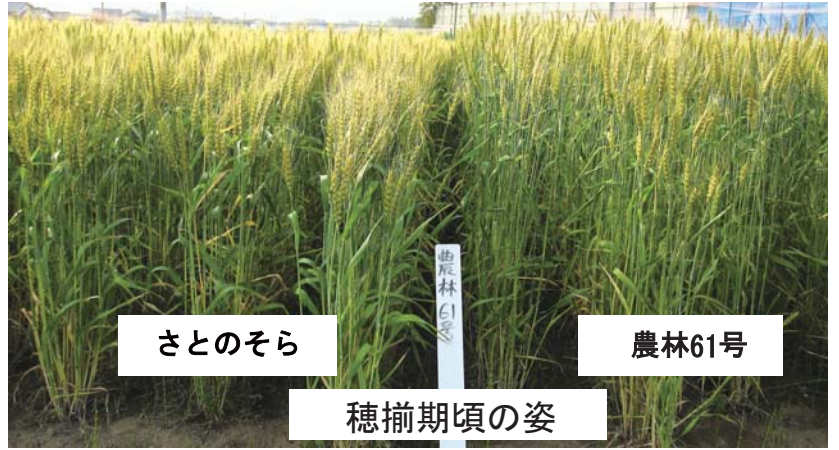


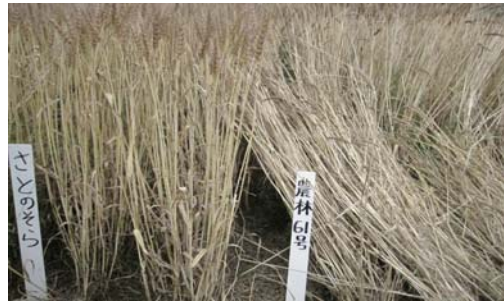
小麦「さとのそら」の栽培方法



- 排水対策は万全に行いましょう！
- 播種適期は11月上旬です！
- 追肥は3月上旬に施用しましょう！
- 開花期に赤かび病を防除しましょう！

品種特性（「農林61号」と比べて）

- 成熟期は1～5日早い
- 稈が短く、倒れにくい
- 縞萎縮病に強い
- 赤かび病抵抗性は同程度
- 茎・穂数が多く、穂がやや短い
- 収量は同程度



さとのそら 農林61号
倒伏に強い



さとのそら 農林61号
縞萎縮病常発田での生育も良好

月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育ステージ		出芽									最高分げつ期			茎立期			出穂期						成熟期				
主な作業	排水対策	基肥 播種 除草剤			←→			踏圧						追肥			←→ 赤かび病防除						←→ 収穫 乾燥 調製				

栽培のポイント

排水対策

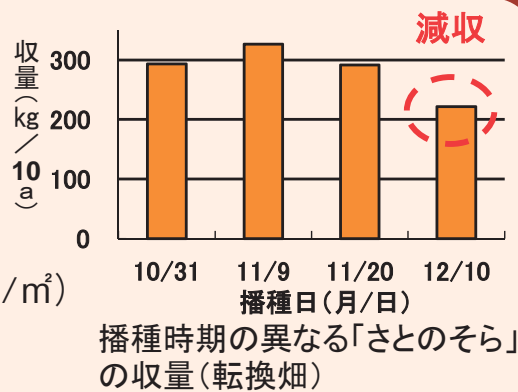
- 栽培圃場を団地化して地域排水に努める。
- 地下水位は50cm以下を目標とする。
- サブソイラ等で本暗渠に直交する方向に2～3m間隔で弾丸暗渠を施工する。
- 明渠を掘削し、排水路へ連結させる。

基肥

- 土壌のpHが6.5～7.0となるよう石灰で矯正する。
- 窒素：リン酸：加里＝6～8：15：12kg/10a

播種

- 播種適期：11月上旬
(12月以降の遅播きは減収しやすいので、遅くとも11月中旬までに播種する)
- 播種量：6～8kg/10a
(目標苗立数：100～150本/m²)
- 種子消毒を行う。
- 播種深は3cmとする。



追肥

- 転換畑や地力の低い畑では、追肥による増収効果が特に高い。このため、3月上旬(茎立期の約10日前)に窒素成分で2～4kg/10a施用する。
- 出穂期の葉色が淡い場合は、粒張りを良くし、タンパク質含有率を高めるため、窒素成分で2～4kg/10aを追肥する。(ただし、出穂期以降の窒素過多は、硝子粒割合が高くなり、等級を低下させる危険性がある。)

赤かび病の防除

- 赤かび病に対する抵抗性は「農林61号」と同程度のため、必ず開花期(出穂後約2～10日)に薬剤を散布する。

収穫

- 収穫は、穂首が黄化してから約3日後、穂がわん曲し始め、穀粒水分が30%程度となる頃を目安として行う。
- 刈り遅れると倒伏し、穂発芽や外観品質の低下を招くので、適期収穫に努める。

乾燥・調製

- 穀粒水分が30%以上の場合は、穀粒の循環が悪くなる可能性があるため乾燥機の張込量を80%以下とする。
- 高温乾燥は品質の低下を招くため、乾燥始めは通風乾燥を行い、徐々に送風温度を上げる。送風温度は、穀粒水分20～30%では40℃未満、20%以下では60℃未満とする。
- 乾燥仕上げ水分は、12.5%以下にする。
- 調製は2.2mmの網目で丁寧に行い、麦稈・ノゲを十分に取り除く。

除草

- 雑草が多い場合は、耕起前に非選択性除草剤を散布する。
- 播種前の碎土は丁寧に、播種後に土壌処理剤を散布する。
- 雑草が多発する場合、草種に応じた茎葉処理剤を散布する。

踏圧

- 本葉3葉期を過ぎてからローラー等を用いて2回程度行う。